

コード	304010401
記入日	H24.6.8

課コード	112
課名	こども課
課長名	荒木 宣貴
担当者	小瀬良 崇

事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 24 年度
------	----------

評価対象事業名称	放課後子ども教室事業
----------	------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3
施策コード	304	施策名称	ふれあい、支えあい、助けあい、みんなで育てよう未来の宝	項コード	2
基本事業コード	30401	基本事業名称	地域における子育ての支援	目コード	1
事務事業コード	3040104	事務事業名称	放課後子ども教室事業費	細目コード	1261
関連計画	次世代育成支援地域行動計画		法令・条例規則等	放課後子ども教室事業実施要綱	

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標					
(対象1) 青方小、魚目小、奈良尾小 1~6年生児童	(対象2)	(対象指標1)	367人				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	・青方小学校、魚目小学校、奈良尾小学校の1~6年生児童を対象に「放課後の安心安全な居場所づくり」を目的に「地域との交流」「自由学習」「異年齢集団での活動(遊び)」などの活動を行った。	*****	*****	*****	実績日数÷	*****	
		年間開所日数	386日	96.5%	予定日数	平成23年度	
		① (達成率分析)	3教室中魚目小学校は昨年度から月1回の開催となったため、青方・奈良尾の2教室分で計算した。				
		② (達成率分析)					
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）					
・放課後児童の居場所づくり及び活動拠点の整備を目的としている。 ①地域との交流 ②異年齢集団での交流(世代交流) ③体験活動		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		*****	*****	*****	延べ参加者数÷	*****	
		① (達成率分析)	延べ参加者数	10,066人	52.4%	延べ参加見込者数	平成23年度
		② (達成率分析)	4月当初の青方・奈良尾教室の参加申込者100人の延参加日数192日で計算し、約52%の参加率となった。				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		22年度以前	23年度		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 日	2,381	2,367	1,981	400	386					
	②										
成果指標	① 人	44,313	35,179	25,113	19,200	10,066					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	19,877	17,693	14,821	5,056	2,872					
直接事業費 A	千円	14,977	13,493	11,321	3,656	2,172					
人件費 B	千円	4,900	4,200	3,500	1,400	700					
内訳	従事職員数	人	0.7	0.6	0.5	0.2	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	9,982	8,994	7,546	2,436	1,448				
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	9,895	8,699	7,275	2,620	1,424					

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1 次 評 価	妥当性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ● ない	理由	核家族化や高齢化などの進行により、児童の異年齢間交流や地域交流が不足しているため実施する必要がある。
	有効性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	参加児童と地域住民が接点を持つことで交流ができており、一定の効果がでている。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	地域の人材を活用することで効果が上がる余地がある。
	効率性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる ● いない	理由	参加児童の「異年齢交流」「地域交流」「体験活動」が実践されており、その効果は大きい。
・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。		● 代えられる ● 代えられない	理由	児童の主体的な活動のための人件費については、最小限の必要経費と考えられる。	

改善 (ACTION)

1 次 評 価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	放課後子どもプランとして協議しながら実施した。
	今後、課題に向けた改善策	体験活動を主とする放課後子ども教室と就労支援を目的とする放課後子どもクラブの整合性・公平性を明確にする必要があると思われる。

2 次 評 価	放課後の児童の完全安全な環境を整備しその保護に努めること。また、事業の実施にあたっては、地域の人材・資源を多く取り込んで地域交流を推進すること。
------------------	--

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業 の方向性	1次	2次	3次	このまま事業を継続	1次	2次	3次	類似事業と整理統合
	●	●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。